

江戸川大学国立公園研究所から

執筆担当・川辺太郎、奥山正樹

はじめに

当研究所は二〇一八年九月号より連載を開始したが、その第一回において、財団法人国立公園協会を中心に多くの方々から書籍や資料を寄贈いただいたこと、所蔵冊数は和書約一、〇〇〇冊、洋書約八〇〇冊にのぼり、データベース化を進めていることを記した。その後、二〇一九年一〇月号では故木原啓吉名誉教授が遺した通称「木原文庫」について、二〇二二年五月号では特筆すべき所蔵資料について紹介している。今回はデータベース化作業の現状を含め、所蔵資料や研究所の最新状況についてお伝えする。

研究所の移転

まず書いておかなければならな

いのが、当研究所の移転についてである。研究所創設以来、A棟二階の二一三号室を使用していたが、二〇二五年二月下旬にC棟二階の二〇一号室に移転した。以前の部屋より若干面積が広くなり書棚を増やしたことで、それまで配架されていなかった資料が整理できるようになった。

新しい研究所の全景は写真1をご覧ください。入り口（写真奥）から時計回りに、新しく設置された棚六台があり、主に和書と雑誌類が配架されている。その向かいには前研究室から移設した棚四台（国立公園協会から寄贈された書棚もある）が並び、主に洋書が配架された。入り口正面には古書を収蔵している扉付キャビネット、「国立公園」のバックナンバーを収蔵しているマガジンラックなどがある。また、部屋の中央には机とイス数脚があり、資料の閲

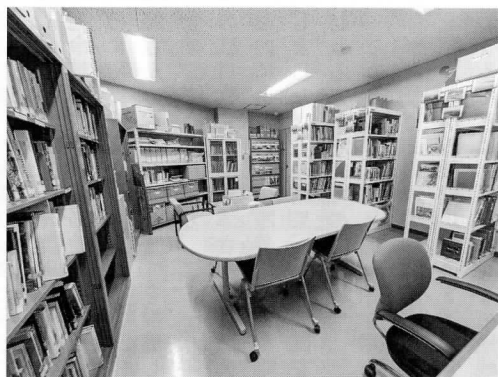


写真1 研究所の北側から撮影

覧が可能になっている。

データベース化の現状

所蔵資料のデータベースは、二〇一八年度に当所のホームページを開くと同時に暫定版を公開し、二〇二二年に更新した蔵書リストでは、和書一、一七〇冊、洋書七八一冊を掲載していた。二〇二五年に更新した和書リストは計一、一〇二冊（二〇二五年六月現在）である。二〇二一年版より掲載冊数が減っている理由としては、国立公園との関連がうすく入手が容易な雑書籍を廃棄したためである。国立公園や特定地域に関する

書籍は、北海道から沖縄まで、おむね地方環境事務所の管轄地域ごとに配架し、それ以外の書籍は造園、観光等の分野別に整理している（写真2）。

一方、洋書は計一、五一三冊（二〇二五年一月現在）と二〇二一年版のおよそ倍の冊数となった。その大きな理由としては、二〇二〇年度末、伊藤太一客員教授が筑波大学の退官に際して段ボール二〇箱に及ぶ書籍等をご寄贈いただいたことが挙げられる。内容はアメリカやブータンを中心に海外の国立公園に関する書籍や資料で、二〇二一年度よりデータベース化作業を始め、二〇二五年度までに書籍のデータベース化作業は終了している。これまでに寄贈された書籍と併せて特に充実したアメリカに関する書籍は国立公園ごとに分類した。その他は国や地域ごとに分類しているが、それぞれ



写真2 和書棚の配置
手前2つが分野別、奥の4つが地域別となっている

の冊数が少ないため、アメリカのように細かくは整理していない。

公開した最新版の洋書リストでは、分類に多少の変更点がある。

二〇二一年版ではIUCN資料、英語、ドイツ語、オランダ語、スウェーデン語、ポーランド語、イタリア語、ポルトガル語、デンマーク・ルーマニア・スロヴァキア語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語、ベトナム語の四ファイルに分けて掲載していたが、今回は中南米に関する書籍も含めた「スペイン語・ポルトガル語」に、所蔵冊数が少ない欧州各言語の書籍を「その他のヨーロッパ言語」としてまとめた。また新たにロシア語のファイルの新設した。さらに各ファイルの掲載冊数を明記した。

また、二〇二一年版では特に区分していなかった雑誌類（和洋）については、各誌の所蔵冊数等にオンラインで閲覧可能な情報などを付記して公開した。なお、ホームページにリストを掲載している「木原文庫」については、現在、研究所での開架は行っておらず、今回の更新作業の対象とはしていない。

雑誌『国立公園』の保管とデータ公開

読者の皆様はご存じと思われるが、本雑誌『国立公園』は一九二九年に発刊し一九四四年まで刊行されたが、第二次世界大戦の影響で休刊を余儀なくされた。その後一九四八年に復刊し、国立公園協会（現自然公園財団）の解散まで刊行を続け、現在は自然公園財団が発行を引き継いでいる。当研究所では、本雑誌『国立公園』の復刊第一号から国立公園協会の解散までの全冊子を所蔵することができた二〇一九年度以降、誌面のスキヤン、PDF化を行った。このデータについては、このたび自然公園財団ウェブサイトにから順次公開を行うことが決まった。なお、一九二九年から一九四四年の戦前版は二〇一〇年に不二出版により復刻出版され図書館等へ普及しているため当研究所での公開の対象にはしていない。

百武充氏のフォトアーカイブ

百武充氏は一九六一年から一九九〇年までパークレンジャーとして活躍し、退官後も自然公園財

団上高地支部などに勤務された。その間、自然の中での生活をつづった随筆などを数多く出版されている。二〇二二年に八五歳で逝去

された後、氏が撮りためた写真フィルムを保管していたバード・フォト・アーカイブス（代表塚本洋三氏）を通じてご遺族から約一万七、〇〇〇点が当研究所に寄贈され、収蔵のためデジタルスキヤンを行った。百武氏の写真は、遺された著書と対照することで当時の国立公園の自然や生活の様子が詳しく読み取れるため、研究対象として価値ある作品群である。二〇二五年の「国立公園映像コンサート」（前号参照）では、宮地信良客員研究員が厳選した二五点を「ある国立公園レンジャーの回想」と題したスライドショーとして来場者に披露することができた。

おわりに

二〇一四年の研究所創設から一〇年以上経ち、国内で唯一「国立公園」を冠する研究所として、貴重な資料の収集及びデータベース化を進めてきた。今後も所蔵資料の整理を継続しつつ、国立公園に

関する重要な図書の収集を積極的に行い、蔵書リストを定期的に更新していく予定である。

当研究所に蔵書のご惠贈を検討してくださる方におかれては、ぜひ本リストをご活用され、蔵書に含まれていないことをあらかじめ確認していただければ幸いです。

江戸川大学国立公園研究所ウェブサイト【所蔵資料】

https://www.edogawa-u.ac.jp/facility/park_research/library.html

参考文献

中島慶二・高橋恵美（二〇一八）研究所と所蔵資料の紹介（江戸川大学国立公園研究所から第一回）国立公園七六六

吉永明弘（二〇一九）木原啓吉先生の遺したもの（江戸川大学国立公園研究所から第一回）国立公園七七七

中島慶二・高橋恵美（二〇二二）研究所所蔵資料の紹介（江戸川大学国立公園研究所から第三六回）国立公園八〇三

川辺 太郎 ●かわべ たろう

二〇一七年江戸川大学社会学部現代社会学科卒業。在学時は世界の国立公園制度を学ぶ。二〇二三年度より国立公園研究所のデータベース化作業を中心に、研究所事業の補佐を行う。二〇二四年度より国立公園研究所研究協力員。

奥山 正樹 ●おくやま まさき

一九九〇年環境庁（当時）入庁。鹿児島大学への出向を経て二〇二四年四月から江戸川大学教授、国立公園研究所長。